

新生土工協発足趣意書

日本土木工業協会は、創立60周年の節目に当たって、日本電力建設業協会、日本鉄道建設業協会及び日本海洋開発建設協会を統合し、名実ともに土木建設業の中核団体として新たに出発する。

わが国は、戦後の荒廃から高度経済成長期を経て、豊かな国民生活を實現するとともに、経済、技術、文化などの幾多の分野で世界を牽引する役割を果たしてきた。こうした躍進は、ひとえに全ての国民のひたむきな日々の営みが築きあげた賜物であり、われわれ土木建設業は、地形、地質、地震等の厳しい自然条件や、稠密な土地利用、活発な産業活動など困難な施工環境を克服して世界屈指の土木技術を培い、生活と産業の基盤整備を通してわが国の発展を支えたことを誇りとしている。

わが国の発展が自由な経済活動によってもたらされたことは言をまたない。しかし、今日、環境、資源、食糧といった人類の生存にかかわる問題が突きつけられ、世界が新しい展望を求めらる中で、人類の拠りどころとなる確かなものに、人、資金、技術が流れ込む経済社会を形成し、人類共通の課題に取り組むことが、今の世代に与えられた使命である。

新生土工協は、わが国の建設産業を先導する企業集団として、健全性の確保と成長力の強化を図り、土木技術を研鑽して新たなフロンティアを拓くとともに、ものづくりの喜びを国民と分かち合い、「暮らしを支え、未来をひらく」負託に応えて、いかなる時代にあってもわが国と世界の人々の繁栄と安らぎに貢献することを、ここに決意する。

平成21年4月23日

社団法人日本土木工業協会